

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信

CHALLENGE COMMUNITY CLUB Ccc

第34号

2017.3 vol.34



旧芝離宮恩賜公園の桜



CCクラブ総会



みなと区民まつり



CC大学10周年記念シンポジウム会場



CCクラブ活動紹介スクエア

CONTENTS ■ ごあいさつ

高輪地区総合支所 協働推進課長
明治学院大学 副学長

大澤 鉄也
永野 茂洋

■ チャレンジコミュニティ大学10周年記念シンポジウム
コミュニティを切り拓くー港区における地域・人づくりの挑戦ー

■ チャレンジコミュニティ・クラブ活動紹介スクエア

■ 2016年度CCクラブ年間活動報告

■ 2016年度地域CC年間活動報告

■ 活動報告～民生委員・児童委員活動特集～

■ 運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの 更なる挑戦を応援します！

■高輪地区総合支所 協働推進課長

大澤 鉄也

「私は〇〇町在住で
ＣＣ大学の〇期です」

「僕は△町でＣＣは
×期です」「僕も×期
」「私もＣＣ修了生で
す」・・・以上の会話
は、私が昨年４月の人
事異動で高輪地区総
合支所に着任し、年度
当初に町の方々が集



まる場で耳にした会話の一部です。その後も比
較的年齢の高い区民の皆さんが集まる会議や行
事に出席しますと、同様の会話が時折聞こえて
きます。初めて会う者同士の挨拶で、ＣＣ大学
修了生であると誇らしく発言される皆さんと接
し、羨ましく思うと同時に、往々にしてこうし
た場に複数の修了生がいることに驚きを禁じえ
ません。高輪地区の職員、ひいては港区の職員
として、こうした会話が街のあちらこちらで聞
かれることを本当に嬉しく思います。

こうしたチャレンジコミュニティ大学も現在
は第１０期となり、高い志を持った５８名の学
生の皆さんが明治学院大学白金キャンパスをベ
ースに、多くの講座を熱心に受講し、フィール
ドワークにも積極的に出向かれています。無事
に３月の修了を迎えれば、修了生の総数は約６
００名の大所帯となります。

着実に歩みを進めているＣＣ大学は、総合支
所制度が発足した翌年（平成１９年・２００７
年）にスタートし、当初から現在まで高輪地区
総合支所の事業として取り組んでいます。私も
区職員としてＣＣ大学の存在は承知してしまし
たが、よもや事業を所管する課長として、ＣＣ
大学並びにＣＣクラブの皆さんと関わりを持て
るようになるとは思っておりませんでした。今

では全国区の知名度を誇るに至ったＣＣ、更な
る充実・発展に向け職責を果たしてまいります。

さて、昨年はＣＣ大学１０周年を記念し、チ
ャレンジコミュニティ・クラブ会員を対象とし
た活動実態調査が行われ、その結果が１０周年
記念活動報告書に掲載されています。多様な活
動を地域で担っている会員の皆さんですが、そ
の拠点としてはＣＣクラブを挙げている方が最
も多く、また、ＣＣクラブの今後のあるべき方
向性については「今までどおりで十分」は僅か
８％であるのに対し、「地域貢献・地域福祉活動
に一層注力する」が４６％に達しています。こ
のような回答はＣＣ大学の目指す姿が、確実に
会員の皆さんに浸透している証左であると感じ
ています。

こうした中、昨年７月に開かれたＣＣクラブ
総会では、クラブとして地域活動の度合いを高
め、その趣旨を明確にするための規約の改正議
案が論議されていました。会員一人ひとりのＣ
Ｃクラブに対する熱い思いや考え方など、活発
に意見が交わされる様子を拝見し、改めて大所
帯となったＣＣクラブの舵取りの難しさを垣間
見た気がします。

黎明期ともいえる１０年を全力で走ってきた
ＣＣ。会員の皆さんに多様な考えや志向がある
中、次なるステージへ羽ばたくためには課題も
あるかと思います。ですが、深い知識と豊富な
経験を有する方々が集まったＣＣです。きっと
見事に解決し更に発展していくことを信じてい
ます。

これからもチャレンジコミュニティの文字ど
おり、地域社会に挑戦し、住みやすいまち、よ
り良い港区を創造していくリーダーとして益々
御活躍いただくことを期待しています。

CCクラブのみなさま、 第10期修了生のみなさま

■明治学院大学副学長

永野 茂洋

2016年度は、港区と明治学院大学との連携事業であるCC大学がスタートして10年という大きな節目の年となりました。2016年12月10日には、明治学院大学白金キャンパスで一番大きな3201教室に約220名



の参加者を得て、「港区政70周年記念事業CC大学10周年記念シンポジウム：コミュニティを切り拓く-港区における地域・人づくりの挑戦-」を盛況の内に開催することができました。いま10期生の皆さまは、この1年の最後の授業の総仕上げに取り組み、修了式に備えているところですが、これまでの修了生はこの10期生を含めると600名ということになります。その600名の方々が修了後もCCクラブで友人の輪を広げ、港区のそれぞれの地域で活発にリーダー的な働きをされているというのは、本当に驚嘆すべきことです。

「十年一昔」と言いますが、この10年は、1年1年異なる積み重ねがあつての10年であり、一括りにはできません。CC大学で学ばれ、修了後CCクラブで、それぞれに地域活動に励んでおられる修了生の皆さまのその年度、その年度の前向きな学習意欲と社会参加の意志があつてはじめて実現できた10年の歩みであり、お一人おひとりの取り組みと生き方の姿勢に心から敬意をあらわしたいと存じます。

同時に10年という単位は、どのような事業であれ、それが人の目に本物であるかどうかわかるのに、やはりどうしても必要な年月と言えます。CC大学も人と言え、10年やってみてようやく一人前になった、というところでしょうか。

大変嬉しいことに、ちょうどその10年目の節目の年に、港区とわたくしどもとが協働して取り組んでまいりましたこのCC大学が、東京都より第1回目の「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」という、荣誉ある賞をいただきました。1月22日（日）に授賞式があり本学の松原康雄学長が出席いたしました。翌日港区長室に学長と共にご報告にうかがいました。

今回の大賞の対象は、企業1団体、教育機関1団体、民間2団体の計4団体ということで、その教育機関として明治学院大学が唯一1校選ばれたわけですが、表彰対象となった取り組み内容は、「平成19年度より港区と連携し、地域活動のリーダーを養成するCC大学を運営。毎年60名の受講生を受入れ、地域で中心的役割を担う人材を輩出している。加えて、修了生による自主組織にも継続的に支援している。」ということで、CC大学が港区との社会連携事業である点が大変高く評価されました。特に、1年間の学びの修了後もCCクラブにつながって、修了生が地域のための貢献活動に積極的に参加していくという仕組みが、他地域のモデルとなるべきものと評価されたことは、明治学院大学にとっても大変光栄なことであると喜んでいる次第です。

4月からは新たに第11期の授業がはじまります。また第10期修了生が加わって、CCクラブの活動も10年目に入ります。行政との協働の仕組みをどのように構築していくか、若い子育て世代との縦の関係をつなぐ仕組みをどのように作っていくか、CCクラブ以外の方たちや一人暮らしの高齢者を巻き込んでいくか、等々、まだまだ課題は沢山ありますが、新たな次の10年に向けて、2017年度も港区との連携を一層深め、誰もが住みやすい地域創成のために、引き続き支援を継続してまいりたいと考えております。

港区政70周年記念事業

チャレンジコミュニティ大学10周年記念シンポジウム

コミュニティを切り拓く―港区における地域・人づくりの挑戦―

港区主催の「港区政 70 周年記念事業・チャレンジコミュニティ大学 10 周年記念シンポジウム コミュニティを切り拓く―港区における地域・人づくりの挑戦―」が 12 月 10 日（土）13 時～16 時に明治学院大学（3201 教室）において、一般区民も来場し、CC 大学 10 期生を含む約 220 名が参加して開催されました。会の全体進行は高輪地区総合支所協働推進課大澤鉄也課長の司会で進められました。チャレンジコミュニティ大学学長武井雅昭港区長、明治学院大学松原康雄学長の挨拶で始まり、来賓の方々が紹介された後、東京大学名誉教授神野直彦氏の記念講演、文部科学省生涯学習政策局参事官小谷和浩氏の基調講演、三菱総合研究所主席研究員松田智生氏の特別報告がありました。休憩時に CC クラブ会員の介護予防体操があり、後半のシンポジウム「コミュニティを切り拓く―港区における地域・人づくりの挑戦―」では CC クラブ会員の報告がありました。終了後、パレットゾーンにてレセプションが開催され、急遽 4 期生の修了式が行われ、その後参加者の親睦が図られました。

シンポジウムはチャレンジコミュニティ大学学長武井雅昭港区長の挨拶で始まりました。

本日の開催にあたり、明治学院大学、CC クラブを始め関係者の協力に対する謝辞、本日の講演者、テーマとシンポジウムの紹介、そして CC クラブ会員に対し期待を次のように述べました。

「CC 大学は平成 19 年に開設し来年 4 月で 10 周年を迎えます。この大学は高齢の方、これから高齢を迎える方々が学習を通して豊かな人生を創造するとともに、今まで培ってきた知識や経験を生かし地域の活性化、地域コミュニティの育成に積極的に活動するリーダーを養成する目的で開校しました。

本日の講演や活動報告の議論を通じて、今後、地域社会のあり方、より良い地域コミュニティを築き上げる方法を皆様と共に考える機会にしたいと思います。」

次に、明治学院大学松原康雄学長が挨拶をしました。

「10 周年を迎えたことは大学としても嬉しく思っています。今年 3 月に明治学院大学が大学基準協会から認証評価を受け、大学基準に適合であるとされましたが、その際のコメントのなかに、長所として CC 大学の存在がありました。港区と連携させていただいて CC 大学を 10 年続けてきた事は大学としても大きなことです。

CC 大学で一年間学んでいただいたことだけでなく、学びが港区の活動に結びついていることを考えると、今日のシンポジウムそして隣で地域活動が展示されていますが、皆さまの活動に大学が関係していることを嬉しく思っています。“十年一日”の言葉がありますが、この 10 年は次の 10 年、20 年に繋がっていくこと、その礎を作ることが出来た 10 年と考えています。引き続

きこの活動が継続されることを願っています。

明治学院大学を母校の一つとして考えていただき、今後もお付き合いいただき活発に活動していただきたいと思います。」



武井雅昭区長



松原康雄学長

記念講演

共同体の人間関係の再生

東京大学名誉教授 神野 直彦氏

私が観察していますスウェーデンは知識社会に向かおうとして、大学が地域社会と交流する機関を作っています。韓国もそうです。そうした先進的試みに取り組んでいる港区、明治学院大学のチャレンジコミュニティ大学は素晴らしいと思っています。

私は政府の税制調査会の会長代理をしています。そこで、河合先生には大変お世話になっております。その関係で本日はお話をさせていただきます。本日のテーマの共同体の人間関係とは、家族やコミュニティを想定



して聞いていただければよろしいと思います。現在の我々の生きている世界は憎しみと暴力が支配しています。人間の歴史が方向性を失っていることは誰もが分かっています。その原因はコミュニティの崩壊にあります。

私が本日申し上げたいことは、現在、人間の歴史は混乱していて、何処に向かうのか誰にも分からない状況になっています。その人間の歴史に方向性を与えようとするれば、それは共同体的人間関係を再生していくことだと考えています。

1. よみがえるテーベの恐怖

ギリシャ神話のアンティゴネの舞台である古代都市テーベが未知の病に脅えた時、その原因は誰もがわかっていて、それはコミュニティの崩壊です。現在もこれと同じような状況と考えています。憎悪と暴力の溢しによって人間の歴史が混迷した。原因は共同体的人間関係が崩され、人間の絆が断ち切られてしまったという不安感が世界中に溢れ出してしまったからです。

2. 不安社会での原理主義の熱狂

1929年の世界恐慌の時には現在と同じように貧困と格差が生まれます。共同体的人間関係が崩され、人間の絆が断ち切られたという不安感は、伝統的な共同体的人間関係への純粋な憧憬を呼び覚まします。伝統的共同体への強い憧憬が、暴力的な社会反動への熱狂へと結びつきます。イスラムの伝統的な共同体に対する憧れによって、ISのような宗教的原理主義が生まれます。さらにイギリスのブレグジットやトランプ現象にみられる国家的原理主義の台頭が生じます。つまりファシズムが生まれたような現象が起きています。

3. 共同体的人間関係の劣化がもたらす民主主義の機能不全

共同体的な人間関係が崩れてくると民主主義も機能しなくなる。本来の民主主義は基盤として対立も論争も親和的であることを必要とするからです。戦後の大衆民主主義で当初投票率が高かったが、民主主義への不信と幻滅で次第に低くなった。世界のなかでも日本の投票率の低落率は最も高くなっています。

4. 自然環境と人的環境の破壊

さて、大転換期にはローマ法王がレーラム・ノヴァールム（回勅・新しい事柄について）を出しています。1991年に出したテーマは「社会主義の弊害と資本主義

の幻想」で、ここで2つの課題を投げかけています。一つは資本主義と社会主義を越えて人間の尊厳と魂の自立を可能にする経済体制は、いかなる特質をもち、いかなる方法で具現化できるかということです。そして、もう一つは自然環境の破壊と人的環境の破壊という問題です。

5. 共同体と市場社会

そもそも市場とは人間の個人と個人だけでは存在しません。人間は共同体と共同体が接触した時のみ市場を動かします。私達が持っている最後の共同体は家族です。家族のなかには市場は入らない。市場原理でなく必要に応じて財を配っています。現在の市場社会とは要素市場がある社会です。生産要素とは土地、資本、労働です。要素市場ということです。生活と生産が分離していることを意味します。そうして分離している社会をまとめることが民主主義にもとづく政治（統治するものとされるもの）の役割となります。

6. 新自由主義による共同体的人間関係の解体

第二次大戦後、各国は福祉国家を目指した。ところが新自由主義は、福祉国家の所得再分配や社会保障が行き渡ると、家族やコミュニティという社会システムの機能が崩壊すると唱えました。しかし、家族やコミュニティの機能は新自由主義によって拡大され、市場によって小さくなっていくのです。新自由主義の政策主張とは反対に、家族やコミュニティを支援し、機能させていく社会システムが必要なのです。



シンポジウム会場

7. 所有欲求から存在欲求へ

存在欲求（人と人、人と自然との関係で充足される欲求）が満たされると幸福を実感し、所有欲求（自然を所有することによって充足される欲求）が満たされ

ると豊かさを実感します。工業社会は存在欲求を犠牲にして、所有欲求を充足したのに対し、これからの工業社会のあとの知識社会では人間の人的欲求である存在欲求の充足を目指すことになります。それは幸福度を目指すということを意味します。

8. 「政府縮小―市場拡大」戦略から「市場抑制―社会拡大」戦略へ

福祉国家が1973年頃から行き詰ると、「小さな政府」に市場拡大していく新自由主義がメインストリームに踊り出ます。結果として貧困と格差が溢れ、家族やコミュニティが崩れていきます。そこで市場を抑制し、欲望を奪い合うのではなく、コミュニティや家族をサポートし、社会を拡大して、幸福を分かち合う社会を目指すべきです。

9 「量の経済」から「質の経済へ」

量を質に変えるのは、情報であり、知識であり、知恵である。それは人間の人的使用方法が開花することだと言ってもよい。美徳が「貯える」ことから「惜しみなく与える」ことになることでもあります。量が質に置き換えられれば、耐久性は向上する。しかも、使い易くなるばかりか、修理も容易となって、使用期間は長期化する。

共同的な人間関係が強ければ強いほど、知識社会では経済は発展していきます。

10. 共同体の人間関係を補強するセーフティネット

家族意識とは構成員の誰もが誰にも対して、不幸にならないことを願い合い、幸福になることを願い合っているという確信です。スウェーデンでは家族が基盤で重要であることを子どもに教えています。

11. 社会的孤立を克服する

共同体の人間関係が存在しなければ、人間は生存しえないのに、日本では市場の人間関係の急速な拡大によって、共同体の人間関係が著しく希薄化してしまっている。共同体の人間関係が家族中心主義であった日本では、家族以外の共同体の人間関係が希薄だったために、「ファミレス社会」になると「無縁社会」となってしまう。日本では社会的孤立が、孤独死、ゴミ屋敷などを象徴に、社会的逸脱行動という社会的現象として表出しています。

12. 類的本質を取り戻す「懐かしい未来」

人類の本質はただ共同制社会のうちに、すなわち人

間と人間の統一のうちにのみ含まれる。

「金のためでなく、利己的な功績のためではなく、人が名声と呼ぶあのはかないもののためでもなく、少年は大志を抱け」（ウィリアム・スミス・クラーク）

明治時代に日本にきたヨーロッパ人が日本人に対して抱いた印象は「やさしさ」、「自己主張をしないで他人に譲る謙虚さ」、「心のゆとり」そして子供の笑顔だそうです。現在の日本人はそれを失っているように思えます。

最後に第二次大戦で爆撃されたケルンの地下室に示された言葉を記して、本日の講演会を終わりにいたします。

「わたしは日が照っていないときでも 太陽の存在を信じます 愛を感じることができなくても/愛の存在を信じます 神が沈黙しているときでも/神の存在を信じます」

基 調 講 演

生涯学習と地域づくりの方向性について

文部科学省生涯学習政策局参事官 小谷 和浩氏

港区政 70 周年そしてチャレンジコミュニティ大学 10 周年おめでとうございます。

私は鳥取県出身で山間部の現在は2万人くらいの町に高校生までいて、現在も年に1回は帰郷すると時々からお世話になった多くのおばあちゃんたちに歓迎されます。そういう心癒す町で育ったことが私のコミュニティ観の前提にあります。

現在、私は文部科学省生涯学習政策局参事官で地方創生コンシェルジュ室の鳥取県担当です。地方創生コンシェルジュとはすべての都道府県単位にあり、自治体からの要望をすべてワンストップで受け止める役割です。平成24年の高齢社会における生涯学習の報告書のなかで一番の好例として挙げられているのがチャレンジコミュニティ大学でした。

1. 政府の政策体系における生涯学習・社会教育の重要性

文部科学省は教育基本法に則り、生涯学習の



振興に取り組んでいます。現在は「自立」、「協働」、「創造」の三つをキーワードに学校教育の充実のもとより、社会教育、家庭教育、その他様々な場や機会における学習の充実、環境整備に取り組んでいます。

経済財政運営と改革の基本方針 2016 からニッポン一億総活躍プランまで進行中です。更なる生涯学習・社会教育の進行に向けての内容としては「学ぶ意欲と能力のある全ての子供・若者、社会人が質の高い教育を受け、一人一人がその能力を最大限伸ばせる社会の実現」、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通じた我が国のレガシーの創出」、「文化芸術立国」の実現等があります。

2. 高齢社会への対策と取組

長寿社会における生涯学習の在り方については、人生 100 年いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」を推進しています。高齢者人口は団塊の世代が 65 歳以上となる平成 27 年（2015 年）には 3392 万人となり、その後も増加し、平成 54 年（2042 年）に 3878 万人でピークを迎え、その後は減少しますが、高齢化率は上昇すると思われます。高齢者の就労希望状況は「働けるうちはいつまでも」が 28.9%と最も多く、次いで「65 歳くらいまで」「70 歳くらいまで」がともに 16.6%となっており、就労を希望する高齢者の割合は 71.9%となっています。高齢者が行っている生涯学習は 60 代でも 70 歳以上でも 4 割以上あり、内容は趣味的なもの、健康・スポーツが上位を占めています。参加したい団体は、趣味のサークル・団体が最も多く、次いで健康・スポーツのサークル・団体となっています。また参加している団体は町内会・自治会が最も多く 4 人に一人が参加している。高齢者がグループ活動に参加してどのような効果があるかと聞くと、「新しい友人が得ることができた」、「生活に充実感ができた」、「健康や体力に自信がついた」となっています。平均寿命と健康寿命の関係から言えば、日常生活に制限のない期間（健康寿命）は延びているが、平均寿命の延びに比べ鈍化しており、健康寿命が延びて行かないと社会保障給付費（医療費）が高くなり課題となって行きます。その社会保障給付費は平成 25 年度過去最高水準になっています。健康づくりの取り組みは公民館で行ったり、大学と連携して行ったりすることにより一人当たり年間 10 万円が下がった事例もあります。

3. 協働による地域づくりの取組

CC 大学で学んだことを生かし、地域で活躍していると聞きましたが、文部科学省としても学校が地域と連携して発展していかなければいけないといろいろな所で話をさせてもらっています。

小、中学校は地域の市町村が管轄していますが、高等学校は都道府県が管轄している場合が多いです。地域との関係でいうと小中学校よりも連携が少ないが、その中で地域住民と連携しながら地域の課題を解決している高校の活動も進んでいます。テレビでも紹介された三重県の高校レストランなどがあります。大学についてもこの明治学院の他にも大学が地域と連携し、研究をしながら地域社会の課題を解決していただきたいと思います。

日本国内ネットワークとして、生涯学習全国市町村協議会では、志を同じくする市町村長が一同に会し、関係機関・団体と協力しながらよりよい町づくりを推進しています。また国際ネットワークとして、ユネスコ生涯学習都市ネットワークではユネスコ生涯学習研究所が「世界中の都市が持続的な学習都市へ戦略的に変革していく重要性を提唱しています。

丁度、お時間になりました。ご清聴ありがとうございました。

特 別 報 告

アクティブシニアが輝く—人生二期作・二毛作— 三菱総合研究所主席研究員 松田 智生氏

過去、何度か CC クラブで話をさせていただいていますが、私的には港区のこの明治学院大学の近くに居を構えており、非常にシンパシーを感じています。

私は地域活性化の専門で産官学から自治会の活動などの助言もしています。

今日のキーワードは「生きがい」です。チャレンジコミュニティ大学で学んで「生きがい」を持って港区で過ごす。ここで学んだ方、修了した方が生き生きと過ごす。「生きがい」というと普段皆さんも「生きがい」を感じる瞬間があると思います。それが大きいのです。



私の本日の講演もそうですので、私が生きがいと感じられる反応をしてください。

「26%」、これが日本の高齢化比率の数字です。港区はこれより低いですが、世界の中では日本が一番高いです。「60歳」は何かというと、今は定年が60歳から65歳に延びましたが、1950年の日本の平均寿命です。平均年齢は伸びています。長生きして良い世の中になったように思われますが、一方、元気の出ない言葉ばかりで、老人漂流、老後破産、熟年離婚。今求められているのは課題の提示ではなく、課題の解決です。

前向きな概念は「チャレンジ」です。私たちは「シルバー」でなく「プラチナ」です。プラチナはシルバーと違い、錆びずに輝くのです。女性の主なストレス源の一位は何だと思われますか、「夫」です。夫が家でゴロゴロするのではなく、外に出ること、外で活躍することです。

私は人生二期作、人生二毛作を提唱しています。人生二期作とは現役時代と同じ分野で活躍すること、人生二毛作とは現役時代とは全く新たな分野に挑戦して活躍することです。地方に移住しなくても、港区で二期作、二毛作は出来るのです。学ぶだけでなく、実践することです。私の父は小学校のゲストティーチャー制度で教えていました。教えることが老化を防ぎます。教えていて「ありがとう」と言われる実感がまたやりたいという心になり、新たに何かに貢献したい気持ちが新しい消費も生みます。CC大学で学んだ後は教えるのです。これが大事です。これが新しい消費も生むのです。

逆にこんなシニアはご用心です。自分の過去を自慢する、口は動くが手は動かない、手は動くが足が動かない人です。過去の自慢話をするのではなく、いま何かに夢中になっている、今、汗をかいて恥をかいている人が大切です。アクティブシニアは過去を語らず今を語っています。

他の大学に目を向けると中部大学、立教大学でも取り組みをおこなっています。お互いが切磋琢磨して欲しいと思います。

人生二期作・二毛作の動向のカギは潜在アクティブ層です。今日の会場に来ている「どこでもやっていけるアクティブ層」は20%といいますが、約60%を占める「やる気があるが一步踏み出せない」潜在アクティブ

層をどのように引っ張り出すかが課題です。そのためには制度改革が必要です。港区にも独自制度を考えて欲しいです。

プラチナ社会を阻む壁があります。否定ばかりして批評家になってしまう現象、一步踏み出せない現象、酒の席では雄弁だが、昼間は沈黙してしまう居酒屋弁士症候群などを打破しましょう。

大きな生きがいとは、自分が成長している実感であり、誰からかフィードバックがあることそして青臭い議論をいつまでもできる深い話し合いの場です。そして、多世代のための成熟した社会づくりです。

今日の話のまとめです

- ① 同じことで輝く人生二期作・新しいことにチャレンジする人生二毛作
- ② そのためには綿密な準備期間と助走期間としての教育機関
- ③ 年賀状に書きたくなるようなライフスタイル
- ④ これからの港区はどうなるか、自分たちはどのように生きていくかなどの青臭い議論（深い話し合い）
- ⑤ なかなか一人では出来ない、一步踏み出せない人の背中を押し一步踏み出す勇気を与える

今日集まったような志のある方が多くの行動を起こせば港区にとって大きな一歩になると思います。今日話したことがみなさんのこれからの行動に役立てば、講演者としてこれほど嬉しいことはありません。

休憩時には港区立介護予防総合センター「ラクっちゃ」で活動しているCCクラブ会員の介護予防メンバーが中心になり、会場の方と一緒に介護予防体操を行い、身体を動かしてリフレッシュしました。



休憩時にみんなで介護予防体操

シンポジウム

休憩後、明治学院大学社会学部和気康太教授が「写真で見る10年」として、CC大学の内容と10年間の歩みを紹介し、シンポジウムが始まりました。

コミュニティを切り拓く
—港区における地域・人づくりの挑戦—
コーディネーター
明治学院大学教授 河合 克義氏

シンポジウムは河合克義教授がコーディネーターを行い、最初にパネリストがそれぞれの活動を披露しました。ここではその項目とまとめを紹介いたします。



NPOによる広域エリアの地域活動
NPO法人 プラチナ美容塾 4期 伊藤 文子

・自己紹介

2014年7月NPO法人認証プラチナ美容塾設立、学びから塾を開き学ぶことを生かし、「学ぶ、活かす、つながる」を3つのミッションとして活動開始。



・プラチナ美容塾パワーチーム紹介

・活動紹介

学ぶ：見た目年齢・美容、健康&元気・美容

アロマで加齢臭・認知症予防、パーソナルカラー、ボランティアメイク、ハンドケア、ネイルで元気、笑顔体操、ホットケア、カッサ美容、老化予防の姿勢と歩き方

活かす：ボランティア活動、

ボランティア活動へメンズ参加（今後は男性も積極的に参加を！）

つながる：地域セミナー&イベント活動、プラチナ世代・笑顔輝くシニア！

これからやりたいこととして、CCクラブや「闊達好齢者」に登場していただき、港区ブランド「大人がカッコいい街」No.1宣言をし、2020年オリンピック・パラリンピックを目指したい。私達の好きなこと、出来ることならずっと続けられる。自分一人では出来ない事もみんなと繋がると、本当のパワーになる！

区と協働で進める地域活動

コミュニティ・カフェ高輪
高輪地区CCクラブ 1期 飯塚 洸子

- ・カフェ高輪設立目的
CCクラブの居場所づくり、地域の人々との交流の場づくり
- ・コミュニティ・カフェ高輪の経緯



2013年10月ボランティア

ア・カフェ高輪オープン、2014年4月高輪地区総合支所と区民センターとの協働事業に発展

- ・主催、場所、開催日、利用状況の説明
- ・活動内容
カフェ開催（月2回）、HUG高輪ミニ講演会（月1回）、地域のイベント・お祭り参加、ボランティア・支援金
- ・今後の課題

運営についてはサポーターを養成・確保し、地域の方々の受け入れを推進し、区との協働のかたちを強化する。地域の人々との交流拡大、世代を超えた人々の参加、地域諸団体との連携を深め、活動をさらに推進していきます。

町会活動や多世代間交流などの地域活動

飯倉三・四丁目町会

地域連携部会 8期 野村 知義

1. 港区内の各地の様子（港区の町会・自治会について）
2. 地域活動、社会福祉活動の拠点、アンケート調査の結果
3. CCクラブ会員の町



会・自治会活動について

4. 報告者の町会活動を中心として種々の活動
5. 飯倉三・四町会のあらまし
6. 町会における現状と課題（地縁型団体から地域共同体としての活動）
7. 主な上位機関との連携・協働
8. 飯倉三・四町会の一年間
9. 町会活動における主な連携・協働
10. 東麻布街づくり協議会活動
11. 山形県舟形町 サマースクール
12. 東麻布街づくり協議会を中心とした活動
13. 自助・共助・公助
14. まとめ

これからの町会とは、地縁型町会組織から共同体的な発想で自分の住んでいるまちを皆で守ることが必要であると考えます。

町会としてのポリシーを持ち、行政と一体になって地域社会を守り、住みやすい、安心して生活できる穏やかな、互いをいたわり合う共同体であることが必要と考えます。

報告終了後、パネリストの意見交換があり、河合克義教授から次のような発言がありました。

「10年を振り返ると、発足時、単に知識と学習が自己実現をする学びの場でなく、学んで地域の課題を発見して行動を起こしていく、そのような機会を与えるような場を作る必要を感じた。3人の報告はそのような成果が見えたと思っています。CCクラブには多くの専門知識を持った方もいて活動されています。

CCクラブの活動の課題としては、今迄以上に地域の方を取り込んでいく段階に来ていると思います。また、多世代の人とのつながりも大事だと思います。」



コーディネーターとパネリスト

最後に文部科学省生涯学習政策局参事官小谷和浩様よりまとめの挨拶をいただきました。

「現在、子供は将来どのようなことにも対応できるようにいろいろな力をつけておきなさいと言われ、大人は働き方改革を言われています。子供も大人もやらなければいけない勉強は苦しい。CC大学（クラブ）の皆さんからは学びは楽しいことが伝わってきます。人間の脳は他者と繋がるために発達すると言われます。学びを通じて互いに繋がろうとすれば脳は発達していきます。

15年後、20年後、私も皆さんと同じような人間になりたいと感じました。」

閉会の辞

CCクラブ代表 斎藤 正精

本日は10周年記念シンポジウムにCC大学在校生、CCクラブ会員以外に多くの方が参加されました。是非、皆さんCC大学に入っていただきたいと思います。CC大学、CCクラブが10年続いた理由は大学修了後のCCクラブの存在が大きいと思います。先程、他の大学の生涯教育の事例がありましたが、修了後のクラブ組織はないと思います。その点で、CC大学は他の大学より良いところがありますので、是非、CC大学に入って活動に参加して下さい。



CCクラブの今後の方向性として、地域に出て行く姿勢が大切だと思います。CCクラブはこれからも、地域の活動に参加してボランティアを行いますので皆さん、協力して欲しいと思います。

レセプション

シンポジウム終了後、16時30分よりパレットゾーン2階で港区関係者、明治学院関係者そしてCC大学10期生とCCクラブ会員が参加し、明治学院大学和気康太教授の司会でレセプションが開かれました。

会は4期生の修了式セレモニーから始まりました。4期生の修了式は、2011年3月12日に予定されていましたが、前日に起こった東日本大震災により中止と

なりました。4期生の強い希望もあり、会場の皆様の賛同を得てこの席を借りて修了式を行うことになりました。

まず、明治学院大学社会連携課加畑慎一課長が修了者一人一人の名前を読み上げ、出席者はその場から一歩前に出て、港区田中秀司副区長から代表の高野信一さんに修了証書が授与されました。その後、高野信一さんがお礼の言葉を述べました。4期修了者58名の半数以上が出席しました。

次に、田中秀司副区長が挨拶をし、明治学院大学永野茂洋副学長の発声で乾杯をしました。

会の途中ではクラブ会員の挨拶として、1期岩村道子さん、4期平岩力さん、8期高田英夫さんが在学中の思い出を話し、グループアドバイザー明石留美子教授、和気康太教授が挨拶をしました。皆さん18時まで在校中の思い出や現在の活動の話を和やかに歓談しました。最後は、みなトーク会久津弘子さん（2期）のリードで、参加者一同で歌を歌い、総括コーディネーター河合克義教授の閉会の辞で終了しました。



左上から、修了式に参加した4期生の皆さん、田中副区長からの修了書授与、高野さんの挨拶、歓談する皆さん

シンポジウム発表について

8期 野村 知義

本シンポジウムで「町会活動や多世代間交流などの地域活動」をテーマに報告の機会を頂き、会場の皆様と情報共有できたことは今後の活動の励みとなり関係者の皆様に感謝致します。町会員の高齢化にともない効率的な運営が進められない町会・自治会の存在は全国的な課題です。しかし、町会・自治会組織は地域コミュニティの最小単位であり、維持・継承することが必要です。特に、顔の見える住民相互による様々な環境にある人々に対応できる支え合いを生み出す地域力が必要だと思います。報告では、様々な立場を超えて補完的な繋がりをもった町会・自治会ネットワークの構築を創ることを述べました。すでにCCクラブは、地域横断的な活動を通じた共助社会が構築されていると言っても良いです。今後、CCクラブとして港区内をはじめ、全国的な繋がりの中で話し合いができ、世界に発信できる呼びかけができればと思います。成しうる限りの仕事を終え、より豊かな生き方を目指し、最後まで元気でやりがいある働き方を問い続けCCクラブの活動に参画できればと思います。

シンポジウムにて特別報告を聴講して

5期 大竹 裕

松田氏の上手なプレゼンとプラチナ美容塾の報告（化粧品会社勤務経験者のボランティア活動＝二期作の好事例）が直後にあったことから十分理解し、納得出来るものでした。

私事です、現役時代六つの航空会社で主としてパイロットの管理業務に従事してきたものの、全くつぶしがきかないことから、7年前のリタイア後は二期作をあきらめました。その後CC大学を受講し、特養ホームでの買い物支援、地域の高齢者の居場所確保としてのいきいきプラザでのマージャン教室、近くの小学校児童の登下校見守り等々、松田氏いうところの二毛作として地域のボランティア活動を実践してきました。

昨年からは老人会の手伝いも始めましたがまだ古希まで2年有余あることから、三毛作目を考えていたところ、たまたまCCクラブの先輩にも勧められ昨年12月から民生委員として活動することになりました。期待と不安が交錯するなかちょうど良いタイミングで松田氏に背中を押してもらいました。有難うございました。

チャレンジコミュニティ・クラブ活動紹介スクエア

シンポジウム会場の隣接の3202号室において11時から16時30分まで、「チャレンジコミュニティ・クラブ活動紹介スクエア」がCCクラブ10周年記念事業として開催され、約150名の方が来場しました。

受付では協賛会社2社からの提供品が先着70名に配付され、また抽選によるプレゼントも行われました。

会場ではCCクラブの運営内容を紹介するパネル、地域活動を紹介するパネル、港区の活動紹介パネルの展示がありました。体験コーナーでは、「プラチナ美容塾」が健康寿命を延ばす美容法としてパーソナルカラー診断、アロマワークショップを開き、オリジナルアロマのプレゼントもありました。また、介護予防総合センター「ラクっちゃ」は骨密度測定を行い、自分の骨密度が何歳に相当するかの測定をし、多くの方が自身の骨年齢の確認をしていました。



体験コーナー

CCクラブ会員の他に区の関係者、一般の区民、そして10期生も興味深く見ていました。また、CCクラブ会員同士やクラブ会員と一般区民が会話を交わす場になり、CCクラブの活動を理解していただける機会となりました。



展示を熱心に見る来場者

当日展示は次の通りです

地域活動のグループ

- ・男のための料理教室：ブルモン料理教室
- ・のるのるウォーキングMINATO「ノルディックウォーキング」
- ・みなトーク会：歌のボランティア「うたつむぎ」の活動紹介他
- ・サイエンスカフェ高輪：科学技術講座を毎月開催
- ・SACみなと大学：芝浦工業大学でのカルチャースクール講座の受講
- ・英会話教室生徒および英会話講師の募集
- ・芝の語り部：港区の歴史まち歩き
- ・ベイエリア・パワーアップ・プロジェクト：芝浦・港南・台場地区での区との協働事業
- ・コミュニティ・カフェ高輪：高輪区民センターとHUG高輪でのカフェとミニ講演会
- ・活性タウン実行委員会：白金の地域事業のサポート

港区関係パネル

- ・緊急通報システムご案内：一人暮らしや高齢者の方への行政サービス
- ・緊急救命キット案内：救急車が来た時などに使用する個人病状キットの紹介
- ・防災に関してDVDでの紹介

CCクラブ活動紹介

- ・CCクラブとは（CCクラブ組織紹介）
- ・最近の活動紹介
- ・部会活動紹介
企画部会、地域連携部会、会報部会、ホームページ部会、総務部会
- ・地域CCクラブ活動紹介
芝CCクラブ、明虹会、高輪地区CCクラブ、3Aクラブ



展示を見ながらの打合せ光景

2016 年度 CC クラブ 年間活動報告

2016 年度 CC クラブ 活動 (10 周年記念事業を含む)

第 1 回 チャレンジコミュニティ・クラブ 定期総会

第 1 回 チャレンジコミュニティ・クラブ 定期総会が 7 月 16 日 (土) 14 時 5 分から明治学院大学白金校舎 2301 教室にて 110 名 (来賓を含む) が参加して、開催されました。丸山世話人副代表の司会で始まり、斎藤世話人代表が議長となり議事を進めました。第 1 号議案 2015 年度活動報告、第 2 号議案 2016 年活動計画、第 3 号議案規約改定の件、第 4 号議案役員選任の件が審議されました。活発な質疑応答があり、第 3 号議案以外は承認され、15 時 20 分に散会となりました。第 3 号議案については、修正意見が出て当日の承認が出来ず、後日、運営委員会での検討となりました。

その後、規約改定については 10 月の運営委員会にて来年度定期総会までの暫定規約が承認されました。



総会会場



講演する長谷川博
名誉教授

平成 28 年度 CC クラブ・ホームカミングディ特別講演会と交流会

7 月 16 日 (土) の定期総会に引き続き、15 時 35 分よりホームカミングディ特別講演会が行われました。講演者は東邦大学名誉教授・東京都民文化栄誉賞受賞者の長谷川博氏で「ぼくのライフワークはアホウドリの再生」のテーマで約 1 時間 10 分の熱い講演でした。

長谷川博氏は 40 年以上にわたり国際保護鳥のアホウドリの研究と保護、再生活動を鳥島で行っており、無人島での暮らしや調査活動を披露しました。鳥島では 1985 年には 47 羽まで減少しましたが、現在は推定 4,200 羽まで回復する成果を上げています。

17 時 30 分からはパレットゾーンに場所を移し、約 100 名が参加し交流会が行われました。

みなと区民まつりへの出展参加

10 月 8 日 (土) ~9 日 (日) に港区芝公園一帯で開催されたみなと区民まつりに CC クラブ 10 周年記念事業の一環として参加しました。

公園入口のテントが CC クラブに割り当てられ、CC クラブの地域活動紹介、行政サービスの緊急通報システム、救急医療情報システムなどの紹介とプラチナ美容塾のハンドケアを行いました。

みなとサイエンスフェスタ

10 月 30 日 (日) に麻布区民センターで開催された第 4 回「こども読書まつり」で、みなとサイエンスフェスタ・科学ワークショップとして展示と実演を行い、約 200 名の方が来場しました。模型を使っのりニア新幹線の仕組み解説、星座盤を作成しながら星座の面白さの説明、活性炭を利用した水の実験、iPad を使ったお絵描き、そして「光で音 (情報) を伝える & 3D プリンター」で模型製作などを披露しました。多くの親子が参加し、子どもたちは時間を忘れて演習を楽しみ、また、それ以上に熱心になる父親もいて多世代交流のイベントになりました。



みなとサイエンス
フェスタ展示
会場



地域福祉フォーラム
開始前ミーティング

第 1 回 港区地域福祉フォーラムに運営協力

11 月 30 日 (水) に高輪区民センターで開催された第 1 回 港区地域福祉フォーラム (港区社会福祉協議会主催) に運営協力として約 50 名が参加しました。また、参加団体として、芝 CC クラブが折り紙教室、高輪地区 CC クラブがコミュニティカフェを行ったほか区民ホールでの催しや各展示コーナーで多くの CC クラブ会員が活躍しました。

企画部会

今年度の企画部会はホームカミングディを始めとしたCCクラブ全体のイベント運営、協力と少人数参加型のイベントの二本立てで運営しました。少人数参加型のイベントは会員がより知識を深め、またクラブ内の他の期の会員との親睦を深めるため、イベント企画数を増やしました。各回の詳細内容はその都度ホームページに掲載しておりますが、ここでは概略を報告いたします。

6月8日(水) 旧岩崎邸庭園内 邸宅見学

梅雨の合間でしたが天気に恵まれ、12名が参加し湯島近くの旧岩崎邸庭園内邸宅をボランティアガイド付きで約2時間の散策を楽しみました。

9月23日(金)水上バスで行く「江戸東京ぶらり旅」

あいにくの小雨模様でしたが、24名の多くの参加者が集まり隅田川クルーズを行いました。各自持参のお弁当を拵げながら、浜離宮、お台場を通り葛西臨海公園で一度下船しました。帰りはスカイツリーを眺め浅草で下船しました。4時間の楽しいクルーズでした。

10月4日(火) ANA機体整備工場見学

東京モノレールの新整備場駅に集合しANA機体整備場の見学会に19名が参加しました。1階講堂での説明から始まり整備作業中の飛行機を3階から1階まで約1時間30分、説明員の引率で工場内を見学しました。



ANA機体整備場見学会

11月18日(金) 国立天文台三鷹キャンパス見学

秋深まる武蔵野にある国立天文台に19名が参加し、4時間近くの貴重な見学会でした。最古の観測用建物である天文台歴史館から始まり、ハイテク天文台での説明、見学で、宇宙空間を楽しみました。今回はCCクラブ会員の入江さん(4期)の配慮で、通常見ることが出来ない場所も見学でき貴重な体験をしました。



国立天文台・三鷹キャンパス見学会

1月6日(金) 江戸最初 山手七福神めぐり

1月の寒さを心配していましたがお天気も良く、高輪の覚林寺(清正公)から目黒通りを下り竜泉寺(目黒不動尊)まで18名が参加し、元気に歩くことができました。このルートは無病息災・長寿祈願のご利益がかなうということで、御朱印をいただいていた方も、そうでない方も今年も健康で活躍できるようパワーをもらいました。

さらに岩手県西和賀郡 研修旅行(2月11日～12日)、と有明そなエリア、パナソニックショールーム見学(2月24日)を行います。

また、今年企画したイベントについて、今回参加出来なかった方も、事前予約が必要な場所もありますが、個人やグループで見学ができますので参加してみてください。

地域連携部会

2016年度の地域連携部会は、8名の体制で活動を始め、途中から経験豊富な1名の部員に加わって頂き体制を強化しました。主な活動は、「地区CC会議」の開催、クローズアップCCの発行、第2回活動実態調査の速報報告、「このゆび、と～まれ 第2号」発行、その他「みなと区民祭りへの出展」、「みなとサイエンスフェスタ・科学ワークショップ」等のイベント支援活動を行いました。

【地区CC会議】2016年6月、9月、12月の3回開催致しました。地区CC会議は、高輪支所協働推進課長、係長、明治学院大学河合克義教授、社会連携課長の皆様にご出席頂き、各地区の地域CCクラブの代表者と数名の部員、CCクラブ役員が出席して開催致しました。地区CC会議は、各地域CCクラブの活動報告をもとに情報共有と課題解決の場であり、毎回密度の濃

い話し合いが行
われました。各
地域CCクラブ
の特徴ある活動
事例は、他の地
域CCクラブで



地区CC会議（2016年12月13日）

横展開され、新たな形で活動が実施されています。

【クローズアップCC】CCクラブで活動する2団体の活動事例を紹介致しました。今後、数団体の活動を紹介する予定です。

【第2回活動実態調査の速報報告】活動実態調査は1期～8期修了生を対象に実施し、有効回収数237、有効回収率54.2%でした。河合克義教授のご指導を頂き、基本集計と分析、速報報告書を作成し、CC大学創立10周年記念シンポジウム開催時の記念誌に掲載されました。CCクラブの今後のあるべき方向性としては、地域貢献・地域福祉活動により注力する（45.6%）、行政との地域事業の協働の取り組みをつくる（38.2%）が意見としてありました。

【このゆび、と～まれ 第2号】公開可能な第2号を発行し、希望者への配布、港区の各総合支所へ配置。今後とも、CCクラブ活動内の横展開の推進、教育・防災に関する連携・協働事業の検討、他区と他県の活動状況把握、自主的な研修実施等により他部会と協調して地域連携部会、CCクラブをさらに前進させることが大切と思います。

ホームページ部会



ホームページ部会は、会員の皆さまにタイムリーに活動状況をお知らせする役割を果たしています。

今年度は、昨年見直した新しい画面をもとに

- ① 誰でも投稿ができる、わかりやすい「投稿マニュアル」の完成
- ② 「投稿マニュアル」を使った記事アップのための説明会の実施
- ③ 規約改正等を反映した、体系的な会員専用ペー

ジへの見直しを進めてまいりました。

活動状況を多くの人に知ってもらうために、皆さんが使える情報ツールになることを、目指しています。ホームページの活用に、ご協力をよろしくお願いいたします。

会報部会

今年度の会報部会には例年に比べ多くの部会員と協力部員が集まり、力強い部会でした。残念ながら、CC通信の発行が年4回から2回になり、活動も大きく変わりました。CC通信33号（春号）は例年通り修了生の感想文を中心に構成致しました。34号は一年間分のCCクラブの活動を会員に知って頂くため、従来にない増ページをしての発行になりました。12月10日にCC大学10周年記念イベントがあり、今後の私たちの活動に大変参考になる内容であり、当日参加出来なかった会員にも知って頂くために、出来る限り詳細を記載しました。

この間には、「チャレンジコミュニティ大学10周年報告書」の作成に協力を致しました。来年度も会員に適切な情報を伝達することを中心に運営致します。

総務部会

2016年4月に設立された新しい部会です。月2、3回集まり部員仲間の楽しい語らいのなか進めています。

CCクラブの活動を会員の皆様に知って頂くために、議事録・イベント情報など必要な情報をタイムリーにお伝えしています。

主な活動実績は以下のとおりです。

- ① 総会業務として、総会資料の取りまとめ（資料：2015年度活動実績、2016年度活動計画、CCクラブ規約改定案、役員選任案）、総会議事録の作成、懇親会の準備と会計
- ② 運営委員会業務として、発表資料の取りまとめ、議事録の作成、会場の名札管理・受付
- ③ 総会議事録・運営委員会議事録、CCクラブイベント情報などの一斉配信（郵送を含む）
- ④ 一斉配信のためのメールアドレスの収集と管理
- ⑤ 各種提案（CCクラブ運営資金の募金、CCクラブTシャツの作成）

会員の皆様がCCクラブの活動をより身近なものと感じ、活動に参加して頂けることを願っています。

2016 年度地域 C C 年間活動報告

芝 C C クラブ

芝 C C クラブのアドプト活動

私達が毎週月曜日に活動しているのは「アドプト」です。「アドプト」とは、港区が所有している花壇を区に代わって市民参加のボランティアとして世話をする活動です。

花は年2回（春～秋、秋～春）のリクエストで、花の種類と量を決めて支給されます。今は4箇所、てまり坂・本芝公園・三田いきいきプラザ・勤労福祉会館の世話をしています。三田いきいきプラザでは、他に春5月には「ひまわり」の種を蒔き、夏に咲かせています。この「ひまわり」は、阪神淡路の大震災時の復興のシンボルとして植えられました。そして種が引き継がれ、東北大震災の時に仙台空港に咲かせた種を、私達が引き継いでいる長い歴史の「ひまわり」です。



(上) 芝フェスティバル出展

(左) 本芝公園花植え替え

年2回の花植えの時は、芝 C C クラブメンバーの他に地域の人々や、「ラクっちゃ」の佐藤さんもお手伝いに来てくれます。てまり坂は、オランダ大使館の向かい側に有りますので、近辺の外国人の方が良く声をかけてくれますし、本芝公園は、近所の幼稚園・保育園の園児が遊びに来て、「きれい」と見ています。花は、人を優しい気持ちにする不思議な力が存在しているので、これからも無理の無いやり方で、続けて行きたいと思っています。

(3 期 新井 隆治)

3 A クラブ (赤坂・青山・麻布地域 C C)

3 A 流ほっこり広場や英会話教室、キックオフ！！

3 A (スリーエー) クラブの活動も3年目に入り更に活動内容を充実させるため、本年度は従来の活動に加え次の3つの目標を新たに設定しました。①お茶とおしゃべりで誰でも気軽に立ち寄れる「定期的サロン」の開催 ②オリンピックに向けた英会話教室の開催③活動方針を浸透させる総会の開催（従来は定例会のみ）です。

①については、名称も「サロン麻布」として麻布地区総合支所（管理課、協働推進課）の多大な支援を受けて11月にスタートしました。今後、定期的（毎月第4火曜日）に開催することとし、開催時間も14時から18時までと参加しやすい運営時間です。まだ手探り状態ですが、いかに円滑に継続して運営するかが当面の課題です。②については、当会のメンバーを講師として11月から青山いきいきプラザでスタートしましたが、定員（15人）を超えての応募があり高齢者の意識の高さに驚嘆しました。③については、5月に開催し活動方針を共有できました。

そのほか、活動の幅を広げるため青山いきいきプラザ事業に積極的に支援・協力する協働の観点から、明治学院大学愛好会吹奏楽部を紹介した結果、参加した高齢者と吹奏楽部学生との世代間交流ができ大変好評でした。更に紹介したプラチナ美容塾一日講座（講師：C C クラブ会員）も好評でした。

みなさんも、コーヒーとおしゃべりのほっこり広場「サロン麻布」へお気軽にどうぞ！



自ら企画した折り紙講座（クリスマスツリー）をみんなでお楽しみ～☺

(6 期 及川 廣子)

明虹会(港南・芝浦・台場地域CCクラブ)

地元の人たちと水辺の魅力を再発見

16年度も引き続き芝浦港南地区総合支所主催のベイエリア・パワーアッププロジェクト分科会「水辺のまち魅力アップ・プロジェクト」を中核として活動中です。今年は港区政70周年ベイエリア・フェスタが11月27日、新しく開園された芝浦公園で行われました。「秋の運河クルーズ」は移動動物園、物産展やコミュニティカフェなどと同時に開催され、大変な賑わいでした。定員44名の6便中で5便が満席で、乗船できない親子連れであふれるほどの人気ぶりでした。



(上) スタッフのCCクラブ会員

(右) 親子連れで賑わう船内

明虹会メンバーは月例会でツアーの運行ルートや運河エリアでの説明ポイントなどを設定するなど企画の段階から参加し、当日には受付や説明ガイドを担当しました。CCクラブ会員も多数乗船し、地上で見ると違った風景を楽しみながらガイドの説明に聞き入っていました。今回は30代の参加が一番多く、芝浦地区に住居を持った理由としては水辺に魅力を感じていることを挙げ、同様の企画にはまた参加したいとのコメントがありました。運河クルーズは3月のベイエリア講座でも予定されています。その他にもレインボーブリッジ・ナイトウォーキングなど多世代と交流ができるイベントがあり我々にとっても刺激的です。参加したスタッフは一緒に、次回もさらに地域の魅力を発見して伝えていきたいと張り切っていました。

この夏、明虹会ではメンバーが初めて芝浦アイランド児童高齢者交流プラザで季節行事の打ち水DAYに参加して、かき氷を作りお母さんと子どもたちにサービスしました。地元の人達とちょっとした交流をすることは地域に溶け込むうえで大変有意義で大切なことと感じました。新年度ももっと多くのメンバーと活動を継続したいと願っております。(6期 斎藤 正精)

高輪地区CCクラブ (三田4,5丁目、高輪、白金、白金台)

多世代が集い楽しむ高輪地区CCクラブの活動

高輪地区CCクラブが発足して3年目の2016年、新たにHUG高輪2階の区民協働スペースに「コミュニティ・カフェ高輪 in HUG」をオープンしました。毎月第3火曜日の午後、ミニ講演会を中心に開催しています。昨年12月20日(火)にはクリスマスが近いことから「クリスマス&カフェ」を企画し、HUG高輪3階の介護施設「こゆりり高輪」のお年寄りの皆さん、同じく1階の「ゆりりん高輪保育園」の大勢の子どもたちが一緒になって楽しみました。明治学院大学服部研究室の学生さんたちによる「ぎょらにゃん」踊り、みなトーク会の方々の絵本読み聞かせや歌の合唱、高輪地区CCクラブのサポーターによるサンタの贈り物など多彩な演出に小さい子どもたちは大喜び、はじける笑顔をみせてくれました。そしてこゆりりのお年寄りの皆さん、地域の方々、学生さん、保育園やこゆりりのスタッフの皆さん、訪問してくださったふれあい相談員はじめ関係者の方々、様々な世代が集い一緒に笑顔で楽しい時間を過ごせたことは素晴らしいことでした。



(上) クリスマス会参加者(2階会場で)

(下) 保育園で園児への読み聞かせ

初めての試みでしたが、総勢54名もの方々に参加していただき、加えて準備段階から熱心にプレゼントの折り紙づくりに参加してくださったサポーターの皆さん、1か月前から準備に奔走したスタッフも含め多くの人たちの献身的な協力のもと盛況のうちに終わることが出来ました。これからも区民センター2階の「コミュニティ・カフェ高輪」ともども地域の方々と共に喜びあえる交流の場をつくっていききたいと思います。

(2期 吉田 由紀子)

活動報告～民生委員・児童委員活動特集～

民生委員・児童委員の制度ができ、2017年で100周年を迎えます。地域の皆様が安心して暮らせるよう、5つの役割（高齢者福祉、生活福祉、障がい者福祉、児童福祉、子育て支援）をそれぞれが担当し、困りごとを適切などころにつないでいく活動です。CCクラブ会員で既に委員の任期を終わられた方を含めると約60名（現会員の約10%相当）います。現在、委員の方は29名で、皆さん、地域に貢献すべく頑張っています。

港区民生委員・児童委員協議会前会長

古橋 義弘（1期）

民生委員・児童委員制度は岡山県の済世顧問制度に始まり、方面委員を経て民生委員制度が確立し、2017年に100周年を迎えます。厚生労働大臣からの委嘱により、地域で活動する福祉ボランティアといえます。民生委員として高齢者や未就学児に関する相談、児童委員として児童や生徒に関する相談を受け、区役所および関係機関につなげて皆さんの抱える課題の改善を図っています。さらには港区社会福祉協議会の参与として福祉バザーをはじめとした活動に協力しています。

現在、港区全体では165名の民生委員・児童委員がいます。そして5か所の総合支所ごとに地区協議会があります。自治体ごとに代表会長を置き、東京都では9ブロック54地区に分かれ、約1万人の民生委員・児童委員がいます。そのうち、女性がほぼ75%を占めています。

地域で活動するため、町会とも協力して一人でも多くの方のお役に立てるよう努力しています。私たちの活動は、地域の皆さんのお話を聞くことを心がけ、情報をいただくことから始まります。



桜ヶ丘記念病院研修にて（後列左から3番目古橋さん）

私は民生委員・児童委員として20年間活動してきました。私たちには守秘義務が課せられていますので、

個人情報情報を漏らすわけにはいきませんが、港区から委託されるひとり暮らし高齢者の実態調査では、災害時等の緊急連絡先を聞きに行くのですが、なかなか会えずに協力を得られないこともありました。また長寿の祝いをお届けして笑顔をいただくことができ、こちらにも笑顔になったこともありました。

最終年の研修で、民生委員・児童委員の先輩方が設立に関わった、桜が丘記念病院を見学することができてよかったと思います。

芝地区

野瀬 かほる（5期）

私は民生委員・児童委員になり、今年で4期目になります。

担当地域は子供が少なく、高齢者の占める割合が多い地域です。特に問題のあるという方が少なく高齢者の見守り、子育て広場、地域の行事のお手伝い等を行っています。



なかでも年一度の高齢者単身世帯調査は大事な仕事です。調査をしていく中で高齢者と一緒におしゃべりをし、時々遊んでくれる人がいないというお話を聞くようになり、とじこもり孤立化していくことが心配になりました。このことから高齢者が集まってお話のできる場所がないかと考えていました。

そんな時、社会福祉協議会がサロン活動事業を行っている事を知り、町会の高齢者の方々の協力を得て昨年4月にサロン活動を開催できるようになりました。サロンの中では皆が見守り、気にかけていてくれます。高齢者のパワーは素晴らしく、自分の得意とするものを教え、できるようになると他の人に教える、皆さんが先生であり生徒です。

私の仕事は高齢者のお話を聞き、困っていることを役所、ふれあい相談員、高齢者相談センターなどに繋げることだと思います。

これからも、高齢者が健康で笑顔で生活できるようにお手伝いしていきたいと思います。

高輪地区

梅澤 和子（3期）

民生委員・児童委員になって9年、この活動を通してたくさんの事を学び、知る事が出来ました。東京都の研修会では、他の区の方から活動内容を伺うと、港区とは違う問題点が多々ありました。住む環境、習慣、風習によって考え方、生活の仕方が異なっています。



私の周りでは高級な高齢者施設が見受けられ、高層マンションが建築され、保育園が足りなくなるほど子供が増えています。

活動では、児童に関する事は少なく、高齢者に関する事が多いです。普段、高齢者の方を見掛けると目が行き、服装や歩き方などの様子が気になります。時には、立ち止まり困っている姿を見掛けると気になり、声を掛ける事もありますが、この声掛けも難しく、やたら声を掛けるのは良くないと思い、まずは様子を見、声掛けのタイミングを取ります。ご本人が、驚いたり、怖がるのを避ける為です。自分がその立場になった時どの様に思うかなと考えてから行動します。喜んで頂き「ありがとう、助かりました」と声が返った時は、ほっとします。また、声掛けすると黙ったまま歩いて行く方もいらっしゃいますが、こんな時は大丈夫だったんだと理解します。

人それぞれの考え方があり、お祭りの太鼓がうるさい、除夜の鐘がうるさいとの意見があるので、自分の考えを押しつけない受け身の状態で活動しようと思っています。

麻布地区

山口 明子（7期）

私が民生委員・児童委員になって15年になります。民生委員・児童委員は先生と言われるような偉い人間ではありません。同じ民生委員・児童委員の仲間と行政の人々と地元町会の人々、皆に助



けられ、教えられて一人では出来なかった事を一步一步、歩んで来ました。

私たちの役割りは高齢者福祉、生活福祉、障がい者福祉、児童福祉、子育て支援です。高齢の方の手助けが少し出来た時、赤ちゃんのお世話をして若いお母さんに感謝された時、小学生の子供と触れ合えた時、喜びが生まれます。訪問先のドアが閉ざされた時、障がい者の心に触れられない時、行政の制度の壁に阻まれた時、悲しくなります。

CC大学を経て新たに民生委員・児童委員になられた皆様、歓迎いたします。地域と行政とのパイプ役、共に歩みましょう。楽しい事もありますよ。頑張りましょう。CCクラブの皆様、民生委員・児童委員が訪問した際には是非暖かく接してくださいね。

ちょっとした事が励みになっていますから。

芝浦・港南地区

堀野 美千子（9期）

3年前に民生委員・児童委員の委嘱を受け、昨年CC大学9期を受講しました。

民生委員の仕事の一つに独り暮らしの高齢者の実態調査があり、一人ひとりの家庭を訪問して



います。元気に笑顔で迎えてくださるとホッとしますが、時にはお部屋が片付かなくてゴミ屋敷のような状態や、健康面で問題を抱え、安否確認をしなければならない程心配なことも起こります。ふれあい相談員や高齢者センターに相談をしますが、問題解決につながり安心してもらえると民生委員をしていて良かったと思うようになりました。

最近では街で地域の方に会うと「お変わりないですか、何か変わったことはありませんか」等、声をかけ見守る活動も増えてきました。こういった日常的な活動が地域とつながり、さらには防災・防犯の活動に役立つと思います。

高齢者や子供たちをとりまく環境が社会的にたくさん問題をかかえている今日こそ、一人ひとりとふれあい、声をかけ、見守る活動ができる民生委員・児童委員も地域の中で必要な活動の一つだと思います。

まだまだ経験不足ですが、任期最後まで続けたいと思います。

■運営委員会報告

2016年度 運営委員会報告

本年度のクラブ運営としては3/4半期を過ぎましたが、新しいことへのチャレンジがいろいろありました。総務部会の活動が開始され、旧年度より始まった一斉メールによる会員への連絡が軌道にのり順調に実施されてきております。7月には初めて会員の皆様に参加できるクラブ総会を開催しました。これらの新しい運営体制により運営委員会や部会などクラブの運営部門と会員の距離が縮まったように感じます。10月にはみなと区民祭りに参加して一般の多くの方へCCクラブから直接情報発信を試みました。さらに子どもたちに科学への興味を持ってもらいたいとの趣旨から、第四回みなと「こども読書まつり」でサイエンスフェスタ(科学ワークショップと展示)を独自に行いました。11月には港区社会福祉協議会の主催する第一回港区社会福祉フォーラムに運営協力として50名の方が参加しました。

こういったことはCCクラブに地域活動への志とプロフェッショナルな技能を兼ね備えた人材が多く存在していることで初めて出来ることだと、今更ながらクラブ団体としてのポテンシャル(潜在能力)を感じざるを得ませんでした。その持ち味の一つにグループとしての動員力があり、福祉フォーラムでは実に会員全体の18%近くの方が何らかの形で運営に参加した事になります。このように会員の方が無理なく出来る範囲で参画しても、グループで組織的に協働した結果としてみると大変大きな成果を発揮出来ることがわかったことは収穫でした。これらの経験を今後のクラブ運営に活かしていきたいと思います。

(CCクラブ代表 斎藤 正精)

明治学院大学、「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」を受賞

明治学院大学が第1回「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」を受賞しました。1月22日(日)に授賞式があり、小池百合子東京都知事より松原康雄明治学院大学学長に賞状と記念品が渡されました。この賞の目的は「ボランティア活動に関する継続的取組や先進的取組を行う企業・団体を表彰し、これまでの活動に報いるとともに、ボランティア活動の機運の盛り上げの一助とすること」で、今年度より創設されたものです。

教育機関の分野で表彰されましたが、受賞対象取組内容は「平成19年度より港区と連携し、地域活動のリーダーを養成するチャレンジコミュニティ大学を運営。毎年60名の受講生を受入れ、地域で中心的役割を担う人材を輩出(これまでに約540名)。加えて、修了生による自主組織にも継続的支援」でした。



編集後記

本号はCC大学10周年記念シンポジウムの内容と年間の活動報告をまとめて掲載したために20ページ構成となりました。シンポジウムの講演内容を改めて見ますと、現状社会への認識、私たちの活動を取り巻く環境、そして私たちの行動の方向性など沢山のヒントをいただいた気がします。参考になりましたら幸いです。CC通信は、デジタル化が進むなか、まだまだ重要な情報伝達手段であると認識し、来年度も編集作業に取り組んでいきたいと思っています。最後に、皆様のご協力に感謝いたします。誠に有難うございました。(7期 太田 則義)

写真協力/平尾 恭一様(9期)
榎本 和夫様(7期)
各部会の皆さん



チャレンジコミュニティ通信 vol.34 2017年3月1日発行
発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
Tel. 03-5421-5247 Fax. 03-5421-5387
Email ccclub@mguad.meijigakuin.ac.jp
http://www.minato-ccc.jp

会報部会
部会長 太田 則義(7期)
部員 坂上 宗男(3期)
部員 畔柳 和子(4期)
部員 菅 美知子(7期)
部員 石黒富志子(8期)
部員 山田 紀子(8期)
協力部員 大竹 裕(5期)
協力部員 三澤 清(6期)
協力部員 及川 廣子(6期)